

January 28, 2021

【前日の為替概況】ダウ平均▲730ドルでリスクオフのドル買い、104.20円、ユーロ1.2059ドル

27日のニューヨーク外国為替市場でドル円は3営業日ぶりに反発。終値は104.11円と前営業日NY終値(103.62円)と比べて49銭程度のドル高水準だった。米株市場では一部銘柄に対する個人投資家の著しく投機的な動きがマーケット心理を冷やし、ダウ平均が一時730ドル超下落。為替市場ではリスク・オフのドル買いが優勢になった。まとまった規模の売り注文が観測されていた104.00円を上抜けて、一時104.20円まで上値を伸ばした。

米連邦準備理事会(FRB)は26-27日に開いた米連邦公開市場委員会(FOMC)で、市場予想通りFF金利の誘導目標を0.00-0.25%に据え置くことを全会一致で決定。声明では「経済活動や雇用の回復ペースはここ数カ月に鈍化しており、弱さはパンデミックで最も大きな打撃を受けたセクターに集中している」と指摘し、「FRBはこの厳しい状況で米経済を支援し、最大雇用と物価安定の目標を達成するために、あらゆる手段を活用することに注力している」と改めて表明した。

また、パウエルFRB議長は会見で「今後の道筋は非常に不確実なまま」としながらも、「一部の動きは年内の見通し改善を示唆」「下期の力強い経済見通しを支持する有望な証拠ある」などと発言した。テーパリング(量的緩和の縮小)の議論については「時期尚早」とし、「時期が来たならば事前に検討することを話す」と語った。FRBが予想より早くテーパリングを検討するとの懸念は後退したものの、株価の反発にはつながらなかった。

ユーロドルは反落。終値は1.2111ドルと前営業日NY終値(1.2160ドル)と比べて0.0049ドル程度のユーロ安水準だった。欧米株価の大幅下落を背景に、リスク・オフのドル買いが活発化し一時1.2059ドルと日通し安値を付けた。独政府が2021年成長見通しを従来の4.4%から3.0%に引き下げたことや、「欧州中央銀行(ECB)当局者らは市場がECBによる利下げの可能性を過小評価していると認識」との一部報道もユーロ売りを促した。ただ、急ピッチで下落した反動も出て、引けにかけては下げ渋っている。

ユーロ円は小幅続伸。終値は126.09円と前営業日NY終値(126.00円)と比べて9銭程度のユーロ高水準。独経済見通し引き下げや、ECBによる利下げの可能性が意識されて円買い・ユーロ売りが先行。24時前に一時125.60円まで値を下げた。ただ、売り一巡後はドル円の上昇やユーロドルの下げ渋りにつれた円売り・ユーロ買いが出て、126.19円と日通し高値を付けている。

【本日の東京為替見通し】ドル円、104円台のドル売りオーダーで伸び悩み展開か

本日の東京外国為替市場のドル円は、ダウ平均の大幅下落を受けたリスクオフのドル買いで底堅い展開が予想されるものの、米10年債利回りの低下や104円台でのドル売りオーダーで上値は限定的だと予想される。

昨日のダウ平均は、企業業績への警戒感や新型コロナウイルスのワクチン供給への警戒感が高まったことで633ドル安で引けており、本日の日経平均株価も下落が予想されることで、リスク回避のドル買いが下値を支えることが予想される。しかしながら、104円に控えている本邦輸出企業からのドル売りオーダーが上値を支える構図が続いており、米10年債利回りの低下もドルの上値を抑える要因となる。

本日のドル円のオーダー状況は、上値には、104.20-40円に断続的にドル売りオーダー、超えるとストップロス買い、104.50-70円にも断続的にドル売りオーダーが控えている。下値には、103.50-80円に断続的にドル買いオーダーが控えている。

一目均衡表のテクニカル分析では、抵抗帯である雲(下限103.67円・上限104.32円)の中に入っており、雲を上抜けた場合は、三役好転の強い買いシグナルが点灯し、ドル円は買いの時代に入ることになるため要警戒となる。

米連邦公開市場委員会(FOMC)では、現状の金融緩和政策の維持が決定された。すなわち、2023年までのゼロ金利政策(FF金利誘導目標:0.00-0.25%)継続、新型コロナウイルス感染拡大で引き起こされた景気後退から完全に回復するまで、景気支援策を継続するとのフォワード・ガイダンス、最大限の雇用と物価安定に向けて「一段と顕著な進展」があるまで月額1200億ドルの資産購入を行うバランスシート・ガイダンスからなる金融緩和政策が維持された。パウエルFRB議長は、懸念されていたテーパリング(資産購入の段階的縮小)に関しては時期尚早とし、経済回復が完了するまで経済への強力な支援を続けると再表明した。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◇ 12月商業販売統計速報（小売業販売額、予想：前年比▲0.4%）
- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）

<海外>

- 09:30 ◇ 10-12月期豪輸入物価指数（予想：前期比▲1.0%）
- 17:30 ◇ 12月スウェーデン失業率
- 18:30 ◇ 12月南アフリカ卸売物価指数（PPI、予想：前月比0.2%/前年比3.1%）
- 19:00 ◎ 1月ユーロ圏経済信頼感指数（予想：89.5）
- 19:00 ◎ 1月ユーロ圏消費者信頼感指数（確定値、予想：▲15.5）
- 21:00 ◇ 12月メキシコ貿易収支（予想：46.00億ドルの黒字）
- 22:00 ◎ 1月独消費者物価指数（CPI）速報値（予想：前月比0.4%/前年比0.7%）
- 22:30 ◇ 12月カナダ住宅建設許可件数（予想：前月比▲5.0%）
- 22:30 ◎ 前週分の米新規失業保険申請件数/失業保険継続受給者数（予想：87.5万件/505.4万人）
- 22:30 ☆ 10-12月期米国内総生産（GDP）速報値（予想：前期比年率4.0%）
 - ◎ 個人消費（速報値、予想：前期比3.1%）
 - ◎ コアPCE（速報値、予想：前期比1.5%）
- 24:00 ◎ 12月米景気先行指標総合指数（予想：前月比0.3%）
- 24:00 ☆ 12月米新築住宅販売件数（予想：前月比1.9%/86.5万件）
- 29日 01:00 ◎ 12月ロシア失業率（予想：6.1%）
- 29日 02:15 ◎ シュナーベル欧州中央銀行（ECB）専務理事、講演
- 29日 03:00 ◎ 米財務省、7年債入札

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

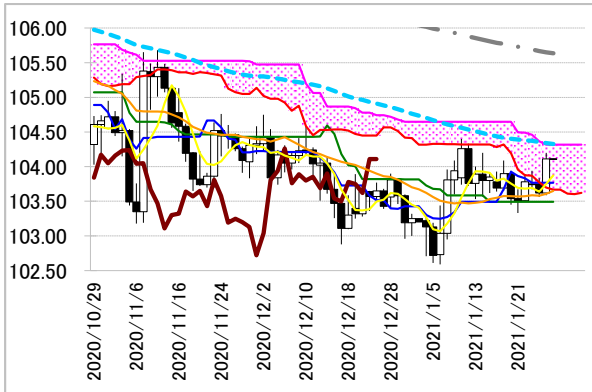
28 日 04:00 米連邦公開市場委員会(FOMC)声明
「FRB はこの厳しい局面で米経済を支援するためにあらゆる手段を行使し、雇用最大化と物価安定という目標を促進することに全力で取り組む」
「新型コロナウイルスのパンデミックは、米国および世界中で多大な人的および経済的苦難をもたらしている」
「経済活動と雇用の回復ペースはここ数カ月で減速しており、パンデミックによって最も悪影響を受けたセクターに弱さが集中している」
「需要低迷とこれまでの原油価格の下落は、消費者物価の上昇を抑えている」
「経済および米国の家計や企業への信用の流れを支援するための政策措置を部分的に反映し、全体的な金融状況は引き続き緩和的だ」
「経済の道筋はワクチン接種の進捗状況を含め、ウイルスの行方に著しく左右されるだろう」
「現在進行中の公衆衛生の危機は引き続き、経済活動、雇用、インフレの重しとなり、経済見通しに著しいリスクをもたらすだろう」
「委員会は雇用最大化と長期的な 2%のインフレ率の達成を目指す」
「この長期的な目標を下回るインフレ率が続いているため、委員会は当面、2%をやや上回る程度のインフレ率の達成を目指す」
「これによりインフレ率は時間とともに平均で 2%になり、長期的なインフレ期待は 2%にしっかりととどまる」
「これらの結果が達成されるまで、委員会は緩和的な金融政策の姿勢を維持すると予想する」
「委員会の最大雇用と物価安定の目標に向けてさらに著しい進展が見られるまで、FRB は引き続き米国債の保有を少なくとも月 800 億ドル、エージェンシーローン担保証券の保有を少なくとも月 400 億ドル増やす」
「これらの資産購入は、円滑な市場機能と緩和的な金融状況の促進を支援し、それによって家計や企業への信用の流れを支援する」
「金融政策の適切な姿勢を評価するに当たり、委員会は今後もたらされる経済見通しに関する情報の意味を引き続き監視する」
「もし委員会の目標の達成を妨げる可能性があるリスクが生じた場合、委員会は金融政策の姿勢を適切に調整する準備がある」
「委員会の評価は、公衆衛生に関連する情報、労働市場の状況、インフレ圧力、インフレ期待、金融と世界の動向を含む幅広い情報を考慮する」

「今回の決定は全会一致」

28 日 04:36 パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長
「経済の道筋はウイルスの行方に著しく左右されるだろう」
「ウイルスの影響を強く受けているセクターで減速」
「今後の道筋は非常に不確実なまま」
「新型コロナの再拡大は経済と雇用の重荷」
「一部の動きは年内の見直し改善を示唆」
「経済は予想よりも回復力があることが証明された」
「金融政策は回復を支援する上で重要な役割を果たしている」
「経済回復が完了するまで経済への強力な支援を続けると約束」
「一段と顕著な進展までは一定の時間がかかるだろう」
「(ゲームストップについて)コメントせず」
「経済は目標からかけ離れている」
「進展が遅い場合、ガイダンスは緩和強化の意図を示している」
「実質失業率は 10%に接近」
「現在、金融危機のピーク時と同じくらい多くの失業者がいる」
「最近の資産価格の上昇はワクチンと財政政策への期待」
「テーパリングの議論については時期尚早」
「声明で中期的との文言を削除したのは最早短期的だから」
「銀行への規制撤廃は決定していない」
「下期の力強い経済見通しを支持する有望な証拠ある」
「イエレン米財務長官と政策運営上、良好な関係を築けると確信」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

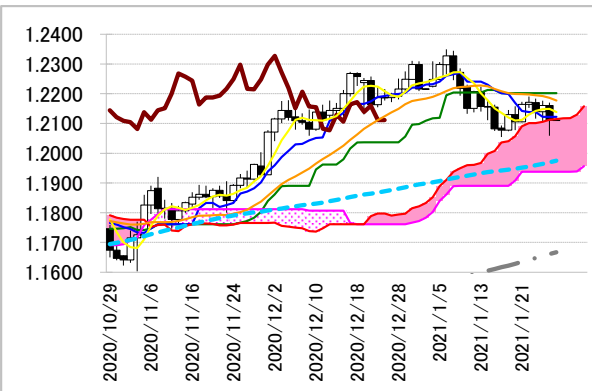


<ドル円=雲の下限を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の中で引けていることで、買いシグナルが優勢な展開となっている。抱き線で転換線を上回って引けていることで、続伸の可能性が示唆されている。

本日は、雲の下限を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	104.32(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	104.11
サポート1	103.67(日足一目均衡表・雲の下限)
サポート2	103.50(日足一目均衡表・基準線)

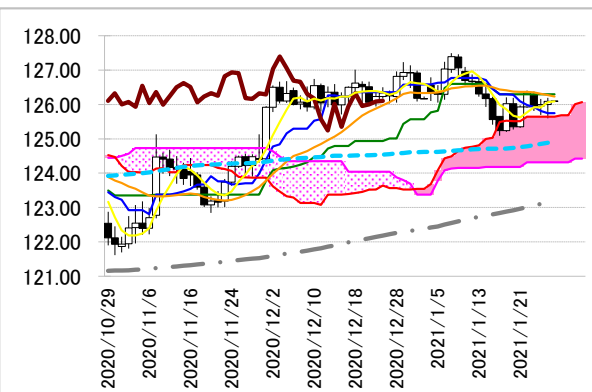


<ユーロドル=基準線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の中で引けていることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。抱き線で転換線を下回って引けていることで続落の可能性が示唆されている。

本日は、基準線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.2202(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	1.2111
サポート1	1.2059(1/27 安値)

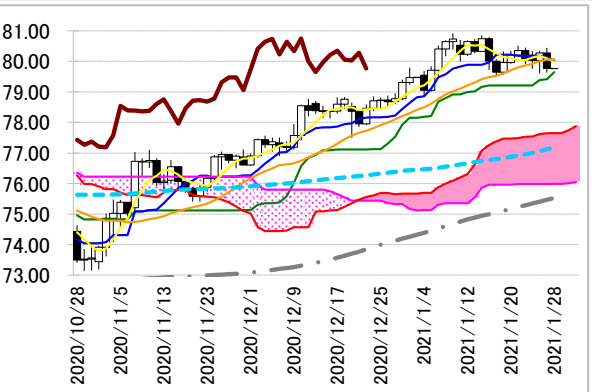


<ユーロ円=転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の上で引けているものの、売りシグナルが優勢な展開となっている。しかし、2手連続陽線で転換線を上回って引けていることで続伸の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	127.49(1/7 高値)
前日終値	126.09
サポート1	125.75(日足一目均衡表・転換線)



<豪ドル円=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯している。しかし、抱き線で転換線を下回って引けていることで、続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	80.02(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	79.77
サポート1	78.85(1/4 安値)

